

令和4年度 学校経営方針（夜間学級）

墨田区立文花中学校長 稲垣 吉実

今年度の学校経営目標

**『チーム文花中として、文武両道を実践し
社会に貢献できる生徒、生徒の自主性を伸ばす学校』を目指す。**

1 教育目標・育てたい生徒像、目指す学校像、目指す教師像

【教育目標】

21世紀を担う社会の一員として、心身共に健康で、これからの時代において、希望をもって自分の人生を切り拓いていく生徒の育成を目指し、次の目標を設定する。

- 豊かな心をそなえ、自ら学び・考え、健康で安全な生活を営み、たくましく生きる生徒を育成する。

（1）育てたい生徒像（知・徳・体のバランスのとれた生徒を育成するために。）

- ・学ぶことの意義と喜びを知り、夜間学級生としての誇りをもって自ら学び、考え、主体的なものごとを判断し、すすんで実行する創造力豊かな生徒。
- ・各国の文化や互いの人格を尊重し合い、自他を大切にす規範意識ある生徒。
- ・相互に学び協力し合い、責任を果たし、社会に貢献しようとする生徒。
- ・文武両道の精神を持ち、自己を見つめ安全な生活に努め、心身共に健康で社会の変化に対応して人間性豊かに生きる生徒。

（2）目指す学校像（誰もが誇りに思う学校にするために）

- ・「わかる」「楽しい」「できる」が実感でき、生徒の自主的な学習意欲を育む学校
- ・ICT機器や一人一台のタブレットを効果的に活用したICT教育を推進する学校
- ・人権を尊重し、夜間学級との交流等、異文化理解を積極的に推進する学校
- ・チーム文花中として学校・家庭・地域が一つになって共に歩む学校

（3）目指す教師像（生徒や保護者、同僚や地域の人から信頼される教師になるために）

- ・生徒に対する教育的愛情と、教職に対する情熱と使命感を持っている教師
- ・豊かな感性を持ち、明朗かつ健康で、人間的魅力にあふれている教師
- ・高い「授業力」をもち、生徒に確かな学力をつけることができる教師
- ・社会的良識と自ら学ぶ意欲を持ち、組織人としての責任感、協調性を有する教師

2 教育目標達成のための基本方針（教育課程の確実な実施にこだわる！）

- （1）全教育活動を通して人権教育代道徳教育の充実を図る。
- （2）一人一人の習熟度に応じた指導を徹底し、主体的・対話的で深い学びを目指した授業を通して生涯自ら学び続ける意欲・態度を育てる。
- （3）一人一台のタブレット端末を効果的に使い「わかる」「できる」授業の推進に努め、学ぶ意義や喜びを感じることで授業を創造する。
- （4）特別支援教IUの充実を図る。
- （5）夜間学級だからこそできる、言語活動の充実を図り、異文化理解教育を推進し、国際社会の中で自信を持って生きていく力を育てる。
- （6）地域との連携の推進し、地域社会の一員としての自覚を促し、日本の社会に適応し貢献できる生徒を育てる。
- （7）オリンピック・パラリンピックのレガシーを継承する。
- （8）学校評価や生徒、学校公開時のアンケート調査等を活用し開かれた学校づくりに努める。
- （9）教育相談活動を重視し、「相談しやすい環境作り」を行い生徒の異変を素早く察知し、不登校生徒へのアプローチやいじめを見逃さないよう取り組む。

3 指導の重点

(1) 組織的な活動を通しての学校づくり

- ① 教職員の一人一人が役割分担を果たすとともに、お互いが重なり合う仕事を行い、組織体としての力量を高める。(分掌組織の明確化)(OJTの推進)
- ② 教職員相互の意思の疎通を図り、共通理解、共通指導、共通実践を行う。
- ③ 全教職員が積極的に経営参加意識を持つとともに、担当者、主任、主幹、副校長、校長が「報告、連絡、相談」でつながる共同システムを確立する。

(2) わかる授業・確かな学力を育む授業づくり

- ① 授業力(授業構成力、教材開発力、指導技術、集団統率力、使命感、情熱、感性)の向上を目指し、授業公開を積極的に行うとともに、校内研修の充実を図る。
- ② 明確な授業プランによる、生徒にとって分かりやすい授業(主体的・対話的で深い学び)の実践を行う。また、一単位時間で「前時の確認・本時のめあての掲示・まとめ・適用問題」などの授業スタイルで「指導と評価の一体化」を推進する。
- ③ GIGAスクール構想を推進し、一人一台のタブレット端末をどの教科等でも学びを深めるために効果的に活用する。また、情報モラル等の教育の推進を図るとともに、高度情報化社会に生きる生徒の育成を目指し、ICT教育の推進を図る。
- ④ 指導教諭の授業を積極的に参観し、授業改善に努める。
- ⑤ たえず生徒理解に努め、一人一人を生かす指導を心がけるとともに、基礎・基本の徹底を図る。
- ⑥ 個に応じた指導の充実を目指し、入学時の学力の状況を踏まえた学習指導を基に、TTならびに少人数指導による日本語指導、教科指導や補習等により、一人一人の学力の向上を図る。
- ⑦ 個性を尊重し、認め励ます指導を通して、生徒の意欲を喚起する。
- ⑧ 常に授業改善に取り組み、生徒の学びたいという意欲を引き出す。授業改善のツールとして、電子黒板や一人一台のタブレット端末を積極的に活用する。
- ⑨ 「総合的な学習の時間」は、生徒の多様な生活体験を生かして、生徒の母国の文化や伝統の交流を図りながら、相互の人権を尊重し、国際理解を深める。
- ⑩ 昼間の生徒との交流、地域の方々との交流を通して、異文化理解教育の充実を図り、国際理解教育の推進を図る。
- ⑪ 生徒の「授業評価」を活用し、授業改善を推進する。
- ⑫ オリンピック・パラリンピック教育のレガシーの継承を図る。
- ⑬ 進路指導、キャリア教育を推進する。

(3) 基本的な生活習慣の定着と豊かな人間関係を育成する生活指導

- ① すべての教育活動を通して、偏見や差別をなくし、自他の生命、人権を尊重する教育を推進する。
- ② 「時間や約束を守れる生徒」「挨拶のできる生徒」「身だしなみに気をつけ、品性のある生徒」の育成を図る。
- ③ 教育相談を通して、生徒一人一人の心のケアの充実を図る。スクールカウンセラーとの連携や活用を図る。
- ④ 生徒への関わりを大切にし、一人一人の生徒の変化に気づく感性を高める。
- ⑤ いじめ、問題行動、不登校へは、早期対応・早期指導を全教職員がそれぞれの持ち味を生かし、共同歩調で当たる。
- ⑥ 昼間の教職員、保護者・地域・関係諸機関との連携を密にし、協力して指導にあたる。
- ⑦ 薬物乱用防止や多機能携帯電話端末、SNSなどのトラブル防止に関するセーフティ教室を実施し生徒や家庭に対しての啓発を図る。

(4) 互いを認め、尊重し合う学級づくり

- ① 学級(クラス)は学校教育活動の母体である。学級(クラス)経営が夜間学級全体の教育活動の成否の鍵をにぎっていることを自覚して経営にあたる。集団活動を通して、「心の居場所づくり」や「絆づくり」を行う。
- ② 偏見やいじめをなくし、一人一人を生かし、伸ばしていくためには学級に明るい雰囲気

気と規律がなければならない。そのためには、教師自身の温かさ、適切な指導と管理が必要である。教師が積極的に生徒一人一人と関わりを持ち、その生徒の良さを見つけ・認め・励まし・伸ばす指導に努める。

- ③ 豊かな人格形成を目指す中で、常に目標を持ち、夢や希望を膨らませ、生き方を学ぶ3年間を見通した進路指導を実践する。(キャリア教育の推進)

(5) 自主的な活動の促進と感動ある学校行事の創造

- ① 自主的な活動を促進し、自主性や主体性を育成する。
② 学校行事の充実や連合行事への積極的な参加を図り、所属感、連帯感を育み、文中生としての誇りを持たせる。

(6) 良い環境で豊かな心を育てる学校づくり

- ① 学校での生徒の安全を第一にし、安全教育の徹底を図る。
② 「環境が人をつくる。その環境は人がつくる。」という認識の下、物的環境、人的環境づくりに努める。
③ 心の教育を重視し、道徳の時間をはじめとするあらゆる教育活動を通して、心を育てる指導に努める。
④ 校舎内外の美化・整備に師弟同行であたる。(1日の始まりを気持ちよく)
⑤ 正しい言葉、明るい挨拶を励行する。
⑥ 勤労と奉仕の心を育てる。

(7) 保護者・地域に開かれた学校づくり

- ① 家庭・地域との連携を図り、信頼関係を深め、共同歩調で生徒を指導する学校を目指す。
② 学校の教育活動を保護者・地域に広く公開し、協力を得る。(COCOO・HP等)
③ 「地域ふれあい祭り」等、育成委員会主催の行事に積極的に関わり、その一翼を担う。
④ 「学校評価」を活用し、学校教育の充実・改善を図る。

(8) 教員の資質・能力の向上と組織機能の強化

- ① 常に教える「プロ」としての誇りと自覚をもち、授業力・生徒理解力・危機管理能力等、自らの資質・能力の向上に努める。
② ICTを活用した授業研究等、生徒の意欲・関心を引きだし、引き続き新学習指導要領に向けた校内研修を計画・実践する。
③ キャリアプランによる計画的な研修への参加を推進する。
④ 公務員としてのサービスを厳守し、使命を全うする。尊敬される教職員を目指す。
(天網恢々疎にして漏らさず) 問題を起こしたときの影響を考えましょう。
⑤ 働き方改革を視野に入れ、組織で効率よく仕事を行うように努める。
(会議は1時間。計画的な年休取得。)

(9) 新しい生活様式による教育活動の推進。

- ① 国や都のガイドラインや「墨田区立幼稚園、小・中学校感染予防に対応した教育活動の基本方針」等に基づき新しい生活様式による教育活動を全教員で工夫する。
② 濃厚接触者を出さないよう、基本的な感染対策を継続する。
③ ICT機器等を効果的に活用して、生徒の安心・安全な学校生活や学びの保証を図る。